

平成30年度 日向市立日知屋小学校 自己評価及び学校関係者評価 <知育>

4段階評価 4・・・大変よい 3・・・概ねよい 2・・・もう少し改善を要する 1・・・大いに改善を要する

区分	重点目標	具体的達成目標	具体的実践方策	自己評価		関係者 評価	考察（学校）	学校・家庭・地域の取組を踏まえた協議内容
				項目別	総合			
知 育	集中して授業に取り組み、基礎的・基本的学習内容を確実に身に付け、深い思考・判断ができ、自分の考えを自分の言葉で表現できる児童を育成する。	① 全国学力テストが全国・県平均以上	○ 45分間の充実した授業の実践	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1時間1時間の授業の充実のために、1年間を通して、特に、国語科、算数科を中心とする職員研修会の充実を図ることにより、授業の中で児童の学力を伸ばす模索を続けてきた。今後も絶えず研鑽を続ける。</li> <li>○ 全国学力テストや県学力テストで十分力を発揮することが出来るように、問題の形式に慣れさせる練習を積んだり、繰り返し練習させたりしている。集中して、自分でしっかり考えて解く習慣が大切である。家庭学習による反復練習も、ながら勉強ではなくしっかり取り組んでほしいと考える。</li> <li>○ テストや宿題で間違えたところを、友達や先生に聞いたり、自分で再度解いてみたりすることによって確実な力にしてほしい。反復練習によって定着するので、家庭での環境づくりや声掛け、見届けもお願いしたい。勉強する目的意識をしっかりとらせていただきたい。</li> <li>○ 授業に集中できる環境が大切である。授業中は、手遊びや私語などせず、先生の話や友達の発表を静かに聞いたり、集中して自分自身で考えたり、積極的に発表したりなどというような当たり前のことが大切だということを学校でも家庭でも教え続けていくことが大切である。学習に粘り強く取り組む忍耐力やものごとに真面目に取り組む誠実さや素直さは大切だと言える。</li> <li>○ 学校や家庭において、学年に応じた本に親しむ声掛けがさらに必要である。学年に応じた本を避けてばかりでは、読解力や集中して活字を追う力を伸ばすことはできないと言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元テストが90点以上を目指すという目標は分かり易い。学級の大半の児童が90点以上であるならば、評価を4としてもよいのではないか。</li> <li>○ 学級や個人でばらつきがあるので、4という評価にしなかった。</li> <li>○ 今年度研究を中心として授業で進めてきた取組の結果は、次年度4月実施の全国及び県学力テストが全国や県の平均以上であるかどうかで示すことができる。</li> <li>○ 読書の取組の評価が低いので、今後ますます「家読」の取組を家庭でしっかり行わなければならない。PTAからも多くの本を購入してもらった。どんどん活用させていきたい。</li> <li>○ 児童の目線になった指導を行うことによってもっと向上するはずである。先生と児童との信頼関係を大切にしながら教育に当たってほしい。</li> </ul>
		② 県学力テストが県平均以上	○ 授業最後の習熟の時間の確保	3				
		③ 単元テストが90点以上	○ 「わかる！できる！」まで教える指導実践	3				
		④ 宿題などに取り組む児童9割以上	○ 授業中の学習態度の指導	3				
		⑤ 1か月に10冊以上の読書	○ 基礎的・基本的学習内容の反復練習	2				
		⑥ 授業に集中して生き生きと取り組む児童	○ 学習課題に応じた宿題	3				
		⑦ 学用品の忘れ物をしない児童	○ 家庭でのメディアコントロール	3				